JICSTにおける複写利用調査

—平成5年度データを中心に—

**A usage study on JICST photocopying service:
Centered around the statistical data of FY 1993**

NOGUCHI Mitsuo

Report

[著者抄録] 科学技術文献の複写を年間120万件以上処理しているJICSTの複写サービス業務について、平成5年度の統計資料を中心に、利用者の申込方法、複写不能となる理由の報告。年間120万件の複写処理を行ったものについて、複写申込の対象となった資料数、発行年、刊行周期、発行国、言語、分野についての調査報告。

[著者付与キーワード] 情報センター、情報利用、複写、調査、統計

[Author Abstract] JICST Photocopying Service manages more than 1.2 million photocopying requests of science and technology literature annually. The author describes ordering procedures for users and the cases that photoduplication process is rejected based on the statistical data of FY 1993. The report also says number of documents covered in photoduplication requests so far, years of those publications, frequencies of those publications, countries of those publications, languages used in them, and the subject areas.

[Keywords by Author] information center, information use, photocopying, investigation, statistics

* 日本科学技術情報センター情報資料館 (〒179 練馬区旭町2-8-18) Tel. 03(3976)4141
JICST Library (8-18, Asahicho, 2-chome, Nerima-ku, 179)

1. はじめに

JICSTの複写利用統計は、「情報管理」誌では過去 Vol. 9 No. 7 (1967) と Vol. 18 No. 10 (1976) の2回報告されただけで、その後複写統計は発表されていない。複写事務作業等の合理化、特に複写納期の短縮をはかるために、事務作業のコンピュータ化を行って来た。その結果、大量の複写受注を可能とし、複写納期も大幅に短縮された。また、コンピュータ化により、今迄手作業で集計していた統計や、取れなかったデータも容易に出力されるようになった。年度単位に集計された統計を経年の推移でみてみると、また異った面等もみえて来る。今回、平成5年度のデータを中心に、JICSTが受付けた複写の統計について、調査報告をする。

2. 複写申込

2.1 申込方法

平成5年度の複写受付件数は、12,464件であった。申込方法別にみると、JOISシステムの¥ORDコマンドを利用したの申し込みが多い。申込書等文書(郵送)による申し込みも、比率としては段々

少なくなる傾向ではあるが、件数としては大幅な減少とはなっていない(図1および表1)。

申込方法	5年度割合
A ¥ORDによる申し込み	60.1%
B 申込書等文書による申し込み	35.9%
C FAX複写申し込み	1.8%
D 閲覧複写申し込み	2.2%

¥ORDによる申し込み
昭和56年(1981年)5月より、JOIS端末機から複写申し込みができるシステム(¥ORD)の利用を開始した。この¥ORDシステムを使用した申し込み件数は、システムを開始した翌年昭和57年度は、724件であったが、約10年を経過した平成5年

表1

年 度	複 写 件 数	備 考
昭和33年	24,000	昭和32年JICST創立
昭和43年	314,000	昭和33年複写サービス開始
昭和48年	373,000	昭和55年情報資料館開設
昭和53年	440,000	昭和56年JOIS-IIサービス開始
昭和56年	597,000	
昭和58年	704,000	
昭和63年	1,124,000	
平成元年	1,128,000	
平成2年	1,280,000	
平成3年	1,327,000	
平成4年	1,234,000	
平成5年	1,178,000

図1 複写申込方法

度は7,484件と10倍以上の利用件数となった。これは申込方法が簡単で早い、また料金がかからない等の利点を評価されたものと思われる。

¥ORDの申込方法として3通りの方法がある。

④整理番号からの申し込み

JOISで各記事に付与された一連番号だけを入力する。

⑤記事番号からの申し込み

冊子体二次資料「科学技術文献速報」に掲載された記事に付与された一連番号だけを入力する。

⑥書誌事項による申し込み

JICST資料番号および必要な書誌事項を入力する。ISSNやCODENも使用できる。

申込方法④⑤⑥別にみると、⑥の記事番号からの

	平成3年度	平成4年度	平成5年度
④	53.1%	55.2%	56.6%
⑤	23.8%	21.4%	18.9%
⑥	23.1%	23.4%	24.4%

申し込みが減少傾向に有り、⑥の書誌事項による申し込みが少しずつ増加している。書誌事項による申し込みが増加すると、書誌事項不備等が多くなる。したがって調査に要する時間が増大し、最終的には複写不能事故が多くなるということになる。

2.2 複写提供

平成5年度の複写提供件数は、35年前の昭和33年度と比べると約50倍になっている(表1)。オンライン・データベース・サービスの普及増と共に、複写提供件数の増加がみられる。昭和63年度あたりからこの増加傾向も緩やかになってきている。これは社会経済現象などの一時的な傾向なのか、今後また増加傾向となるのか、あるいはこの程度が国内需要の限界なのか、また遡って情報作成の方に限界がきているのか、少し検討が必要であろう。

2.3 不能事故

複写申し込みを受けたが、製品化できなかったものを、JICSTでは複写不能事故と呼称している。他機関で“キャンセル”とか“謝絶”と称しているものと同じものである。

複写不能事故率(不能事故件数÷受付件数)は、4～6%で推移している。

	不能事故率
昭和53年度	4.5%
昭和58年度	4.3%
昭和63年度	4.6%
平成3年度	6.0%
平成4年度	5.6%

図2 複写不能事故の理由

平成5年度 4.7%

不能事故となる原因を4種に分類している。

〔A〕JICST業務で使用：抄録中、製本中

〔B〕申込方法不備：書誌事項不備または不充分、
ダブリ申し込み

〔C〕原資料：所蔵なし、欠号、未着

〔D〕その他：著作権、その他

平成5年度と元年度の原因別不能事故の比率は、図2のようになっている。〔A〕の業務使用が元年度に比べ5年度は、大幅に減少している。業務使用のうち、ほとんどが「抄録中」と呼んでいる事故である。これは、データベース等を作成するために使用中であることを意味している。抄録作成期間の短縮等改善に担当部門（情報部）も努力している結果と評価していただきたい。〔B〕申込方法不備のものが多。複写申込者も二次資料や参考文献の利用により、複写依頼してくると思われるが意外とミスが多いので検索の作業を煩雑にしている。

3. 複 写 統 計

3. 1 複写資料

複写依頼のあった資料誌数について調査した。

まず、JICSTの収集予定数（平成6年度）は、

外国雑誌 8,710種 国内雑誌 8,280種
会議資料 400件 技術レポート 12,500件
公共資料 5,000種

（JICSTサービスガイド'94より）

次に、収集中止・廃刊等を含め今までに何種類の

資料を収集したかについて、JICST資料所蔵目録（1992年版）の“利用の手引き収録範囲”から引用すると、収録数（1992年7月31日までに収集した数）は、

外国雑誌 14,046種 国内雑誌 10,888種
会議資料 29,659件 技術レポート 約8,384件
公共資料 30,647種

平成4・5各年度に、1件以上の複写利用があった資料誌数は、224種～234種であった（表2）。資料1種についての複写件数単位に、資料種類別に資料誌数を調査したのが表3である。“他”の欄に、会議資料・レポート・公共資料等の数が含まれている。複写件数が2,000件以上ある資料では、外国雑誌の方が国内雑誌より多い。100件以上では、外国雑誌と国内雑誌は半々といえる。

3. 2 複写利用件数

複写件数の多い順に、上位何位までの資料で複写件数の何%をカバーしているかの調査結果が表4である。昭和40年度の同データが本誌（情報管

表2

	平成5年度	平成4年度
外国雑誌	6,297種	6,076種
国内雑誌	6,370種	5,948種
会議資料	5,955件	5,929件
公共資料	4,322種	4,316種
レポート等	12種	14種
合 計	22,956	22,283

表3

複 写 件 数	平 成 5 年 度				平 成 4 年 度			
	外国雑誌	国内雑誌	他	合 計	外国雑誌	国内雑誌	他	合 計
5,000件以上	2	1	1	4	0	1	1	2
2,000～4,999	13	7	2	22	11	9	2	22
1,000～1,999	48	54	0	102	53	68	0	121
500～999	130	166	0	296	127	185	1	313
200～499	445	442	11	898	456	444	13	913
100～199	661	500	29	1,190	543	621	40	1,204
合 計	1,299	1,170	43	2,512	1,190	1,328	57	2,575
比 率	51.7%	46.6%	1.7%	100%	46.2%	51.6%	2.2%	100%

理9 (7) 1966)に掲載されていたので、表4に引用した。上位誌のカバー率が低下していることがわかる。

複写利用件数の50%, 80%を充足する資料誌数についての調査が、表5である。外国雑誌・国内雑誌・会議資料に分けて調べた。レポートは外国雑誌に含んだ。年々、50%・80%を充足する資料誌数は、増加の傾向にある。約15年前の昭和52年度と平成4・5年度を比較すると、国内雑誌が著しく増加していることが特徴といえる。また、会議資料の減少も目立つ現象である。

次に、複写上位1,000誌について、外国雑誌・国内雑誌を主にして、資料誌数と複写件数を平成4・5年度調査した。両年度共1,000位の複写件数が同数であったので、同数の資料も含め集計した。資料誌数は、両年度共1,003誌であった。この統計では、レポートは“他”の項に入れた(表6)。上位100位までの複写件数では、外国雑誌の方が国内雑誌より上回っているが、全体的には国内雑誌の方が、複写件数は多い。

3.3 発行年別

平成5年度複写をした資料の発行年別データが表7である。1994年発行資料の複写は、平成5年度末(1994年3月頃)のものである。したがって、まだ極端に少ない。表には加えなかったが、外国雑誌の1965~1969年(5年)は、1.79%, 累計(30年)99.27%である。

3.4 刊行周期別

平成5年度の複写上位1,003誌について、刊行周期別に外国誌・国内誌に分けて調査した。会議資料・レポートは外国誌の方に入れた(表8, 図3, 図4)。

国内誌に対する複写は、月刊誌と年1回発行の資料で72.9%と集中している。外国誌に対する複写の特徴は、刊行周期の短いもの(毎週・隔週・月2回)に20%弱の需要がみられたことである。これに見合う国内誌の複写は、約1%である。毎週(w)・隔週(bw)の外国誌26誌を分野別にみると、多いのは有機化学分野6誌、生物科学分野6

表4

単位: %

順位	平成5年度 (1993年)	平成4年度 (1992年)	昭和56年度 (1981年)	昭和40年度 (1965年)
1~10位	4.1	4.0		
1~50位	10.9	10.6		19.9
1~100位	16.4	16.1	19.2	29.6
1~200位	24.5	24.3	27.4	43.3
1~500位	39.5	39.5	43.8	
1~1,000位	54.0	54.2	60.1	
1~2,000位	69.8	69.9		
1~3,000位	78.6	78.6		
1~5,000位	88.0	88.0		

表5

単位: 誌

		資料数	資料種類別内訳		
			外国雑誌	国内雑誌	会議資料
50%	昭和52年度	522	376	118	28
	昭和56年度	660	422	213	25
	平成4年度	828	377	448	3
	平成5年度	836	396	440	0
80%	昭和52年度	1,689	1,176	384	129
	昭和56年度	2,184	1,362	603	219
	平成4年度	3,211	1,667	1,454	90
	平成5年度	3,220	1,688	1,460	72

表6

		資料誌数 (単位: 誌)			複写件数 (単位: %)		
		外国雑誌	国内雑誌	他	外国雑誌	国内雑誌	他
平成5年度	1~1,000位	472	524	7	47.4	50.2	2.4
	1~100位	48	49	3	50.0	42.5	7.5
	1~500位	229	223	3	47.1	49.8	3.1
	501~1,000位	243	301	4	48.2	51.2	0.7
平成4年度	1~1,000位	465	527	11	44.5	53.0	2.6
	1~100位	52	45	3	47.7	45.1	7.1
	1~500位	210	286	4	42.1	54.8	3.0
	501~1,000位	255	241	7	50.7	47.9	1.4

表7 資料発行年別複写数 (比率)

経過年数		外国雑誌		国内雑誌		レポート		会議資料	
		比率	累計	比率	累計	比率	累計	比率	累計
0	1994	0.05		0.04		0.00		0.00	
1	1993	15.74		19.84		1.63		1.17	
2	1992	25.58		29.08		34.90		23.43	
3	1991	9.59		10.23		15.82		14.72	
4	1990	7.14		7.41		7.88		11.70	
	1990~1994	58.09		66.60		60.23		51.01	
(5年)			58.09		66.60		60.23		51.01
	1985~1989	19.65		20.09		23.82		30.25	
(5年)			77.74		86.69		84.05		81.26
	1980~1984	11.28		9.15		11.17		13.20	
(5年)			89.03		95.84		95.22		94.46
	1975~1979	5.54		2.53		3.33		4.35	
(5年)			94.57		98.36		98.55		98.81
	1970~1974	2.91		0.90		1.23		0.87	
(5年)			97.48		99.27		99.78		99.69

誌であった。

3.5 発行国・使用言語別

平成5年度の複写上位1,003誌について、発行国使用言語別に調査した(表9)。

発行国では、日本・アメリカ・イギリス・オランダ・ドイツ・スイスの6か国で、98.4%を占める。また、日本の発行誌が50%以上となっている。上位100誌についてみても、日本の発行誌が49誌と約半分である。約30年前の昭和40年度の上位100誌には、国内誌は1誌も入っていない(表10)。昭和40年度の上位100誌に、3誌入っていたソ連の資料が、平成5年度では上位1,000誌中に1誌だけとなっている。

上位6か国以外の資料について、分野を調べた。

カナダ 1. 有機・高分子化学

2. 応用化学

3. 生物科学

フランス 1. 機械・運輸産業

2. 機械・運輸産業

オーストリア 無機・物理化学

オーストラリア 有機・高分子化学

ハンガリー 無機・物理化学

表8 刊行周期別複写上位誌

周 期		単位：誌		
		外国雑誌	国内雑誌	合 計
定 期 刊 行	毎 週(w)	16	1	17
	隔 週(bw)	10	0	10
	月 2 回(sm)	37	3	40
	毎 月(m)	190	298	488
	隔 月(bm)	33	44	77
	年 4 回(q)	17	25	42
	年 2 回(sa)	4	29	33
	年 1 回(a)	46	73	119
	隔 年(ba)	4	3	7
	その他	82	12	94
不 定 期(ir)		39	37	76
合 計		478	525	1,003

インド 有機・高分子化学

チェコ 有機・高分子化学

使用言語では、英語・日本語の資料で96.5%となり、これにドイツ語を含めると99.5%となる。昭和48年度(1973年)の調査データ(栗田信, 情報管理 18(10)1976)では、英語・日本語・ドイツ語で92%である(表11)。JOIS, 科学技術文献速報の記事採択を行っている JICST 情報部の

資料(表12)でも、英語・日本語以外の言語の比率は、少なくなっている。英語・日本語・ドイツ語以外の言語の資料について分野を調べた。

言語	発行国	分野
フランス語	オランダ	生物科学
韓国語 1	韓国	機械・運輸産業
2	韓国	応用科学
中国語	中国	金属工学

ロシア語	ソ連	応用化学
日本発行の英語誌(20誌)の分野		
物性・物理		5誌
有機・高分子化学		5誌
農学・食品		4誌
電気工学		2誌

3.6 分野別

分野の判定基準は次のように行った。JICSTで

図3 刊行周期別 資料誌数

図4 刊行周期別 複写件数

表9 上位1000誌の発行国と使用言語

単位：誌

発 行 国	使 用 言 語				合 計
	英 語	ドイツ語	日 本 語	そ の 他	
ア メ リ カ USA	255				255
イ ギ リ ス GBR	86				86
オ ラ ン ダ NLD	47			フランス語 1	48
ド イ ツ DEU	15	29			44
ス イ ス CHE	29	1			30
カ ナ ダ CAN	3				3
フ ラ ン ス FRA	2				2
韓 国 KOR				韓国語 2	2
オーストリア AUT	1				1
オーストラリア AUS	1				1
中 国 CHN				中国語 1	1
ハ ン ガ リ ー HUN	1				1
イ ン ド IND	1				1
ソ 連 SUN				ロシア語 1	1
チ ェ コ CZE	1				1
そ の 他 ZZZ	2				2
日 本 JPN	20		504		524
合 計	464	30	504	5	1,003

表10 上位100誌の発行国

単位：誌

平成5年度 (1993年)	発 行 国	昭和40年度 (1965年)
33	ア メ リ カ	51
8	イ ギ リ ス	29
1	ド イ ツ	13
	(西ドイツ)	
	ソ 連	3
	イ ン ド	1
	オーストラリア	1
	フ ラ ン ス	1
	カ ナ ダ	1
49	日 本	
5	オ ラ ン ダ	
4	ス イ ス	
100	合 計	100

表11

単位：%

使 用 言 語	比 率
英 語	61.5
日 本 語	19.3
ド イ ツ 語	11.1
ロ シ ア 語	4.5
フ ラ ン ス 語	2.5
イ タ リ ア 語	0.5
オ ラ ン ダ 語	0.2
ポ ー ラ ン ド 語	0.1

情報管理Vol.18, No10, 1976

栗田 信「JICSTで受け付けた複写物の需要動向について」より転載

科学技術文献速報および JICSTD. B の作成担当部門が情報部である。部は更に分野別に分かれている。収集した資料はどの部門に回送され、処理されるかは収集時に決定している。今回の調査では、複写に利用された資料の処理部門をみることにより、分野別の判定を行った。したがって、複写に利用された論文（文献）の分野ではないことを、お断りしておく。また、前述した項において使用した分野についても同様である。

複写上位1,000誌の複写件数を、分野別に集計したのが表 13 である。応用化学部門（17.4%）、電気工学部門（13.3%）、機械・運輸産業部門（12.5%）、金属工学部門（7.4%）の4部門で、

約50%を占める。また、有機・高分子化学、無機・物理化学、応用化学、生物科学、医学・薬学、農学・食品の化学系6部門で40%を超える。表 13 に情報部の部門別処理数も加えたので参考にさせていただきたい。

一般的に、情報検索とか複写利用において、医学薬学系の利用が多いはずなのに、JICST 医学・薬学部門の資料について、複写利用が少ないのは、国際医学情報モニター等の専門センターの利用、および日本医学図書館協会・日本薬学図書館協会の加盟館間の協力活動が、活発に行われていることの結果であると思われる。

外国文献と国内文献の利用比率を、分野別に調べたのが表 14 である。国内文献の利用比率で示している。表 13 と同様に、情報部での処理数についても、国内文献の処理の割合を付け加えた。複写利用の方からみると、圧倒的に国内文献の利用が多い分野は、土木・建築工学（93.5%）、管理・システム技術（76.6%）、機械・運輸産業（69.9%）である。逆に、外国文献の利用が特に多い部門、国内文献の利用が少ない分野は、生物科学（9.3%）、無機・物理化学（14.7%）、物性・物理

表 12 言語別記事採択数

単位：％

	平成 4年度	昭和63年度	昭和57年度
英 語	66.8	63.8	63.8
日 本 語	24.7	23.3	18.0
ロ シ ア 語	3.3	6.4	9.7
ド イ ツ 語	3.6	4.6	6.0
フ ラ ン ス 語	0.9	1.2	1.9
そ の 他	0.7	0.7	0.6

表 13 分野別複写利用数

単位：％

分 野	上位1000誌の複写件数（分野別比率）				情報部門の処理件数（比率）		
	平成5年度	平成4年度	平成3年度	平成2年度	平成4年度	平成2年度	昭和63年度
土 木 ・ 建 築 工 学	3.3	3.2	2.7	2.8	5.5	6.4	6.5
管 理 ・ シ ス テ ム 技 術	1.2	1.5	1.9	2.0	5.1	5.6	5.5
有 機 ・ 高 分 子 化 学	6.0	6.9	7.4	7.3	5.0	5.0	4.7
無 機 ・ 物 理 化 学	6.7	5.4	5.5	5.9	7.8	6.7	7.2
応 用 化 学	17.4	17.1	17.9	15.6	7.8	7.9	7.0
生 物 化 学	4.3	4.0	4.6	4.5	8.3	8.4	7.7
医 学 ・ 薬 学	3.9	3.6	3.1	2.8	9.0	8.7	8.6
農 学 ・ 食 品	3.5	3.2	2.8	3.0	5.6	4.9	4.2
電 気 工 学	13.3	12.7	14.0	14.8	9.4	9.6	9.2
地 学 ・ 資 源	0.3	0.3	0.2	0.1	3.9	3.3	3.7
金 属 工 学	7.4	7.9	8.1	8.1	4.9	5.2	5.4
環 境 公 害	2.5	2.4	1.7	1.8	3.0	2.5	2.6
機 械 ・ 運 輸 産 業	12.5	12.4	13.0	12.5	11.2	11.6	12.6
物 性 ・ 物 理	5.7	6.2	6.3	8.3	6.6	6.6	15.1
エ ネ ル ギ ー	2.7	3.3	2.6	2.6	3.8	4.2	
高エネ・物理一般	0.7	0.8	1.0	1.1	3.1	3.4	
学 際	6.4	6.5	7.4	6.7			
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 14 国内文献の比率 (分野別)

単位：％

		上位1000誌の複写件数		情報部門の処理件数	
		平成5年度	平成4年度	平成5年度	平成4年度
分野	土木・建築工学	93.5	92.2	57.0	59.1
	管理・システム技術	76.6	87.8	35.2	40.1
	有機・高分子化学	21.3	32.9	18.1	17.5
	無機・物理化学	14.7	16.6	6.6	8.2
	応用化学	56.4	56.9	28.1	30.4
	生物科学	9.3	11.5	15.4	14.3
	医学・薬学	67.9	68.6	64.9	58.0
	農学・食品	65.8	64.6	47.5	54.3
	電気工学	59.8	62.8	37.3	44.0
	地学・資源	56.6	54.5	14.6	16.6
	金属工学	61.9	65.7	30.9	38.1
	環境公害	58.2	58.0	21.5	22.8
	機械・運輸産業	69.9	74.5	39.6	33.6
	物性・物理	18.0	18.2	10.4	10.7
	エネルギー	23.3	21.4	18.1	17.2
	高エネ・物理一般	23.5	12.7	11.8	12.6
	学際	34.3	42.2		
	その他	78.7	86.2		
	国内文献	50.2	53.0	30.8	31.9

表 15 分野別資料誌数

単位：誌

分野	平成5年度(1993年)			平成4年度(1992年)			昭和57年度(1982年)		
	外国誌	国内誌	合計	外国誌	国内誌	合計	外国誌	国内誌	合計
土木・建築工学	3	45	48	3	41	44	12	20	32
管理・システム技術	3	11	14	2	15	17	6	11	17
有機・高分子化学	36	13	49	37	15	52	34	6	40
無機・物理化学	54	9	63	48	8	56	32	6	38
応用化学	77	86	163	82	88	170	123	50	173
生物科学	41	6	47	39	7	46			
医学・薬学	19	38	57	18	36	54	33	9	42
農学・食品	15	26	41	13	23	36			
電気工学	62	78	140	55	72	127	122	37	159
地学・資源	2	2	4	2	1	3	10	4	14
金属工学	37	46	83	37	48	85	82	31	113
環境公害	12	18	30	12	18	30	11	9	20
機械・運輸産業	31	86	117	29	86	115	90	63	153
物性・物理	35	12	47	39	11	50	47	5	52
エネルギー	10	9	19	15	9	24	12	3	15
高エネ・物理一般	8	2	10	10	1	11			
学際	25	23	48	28	31	59	39	19	58
その他	9	14	23	6	18	24	68	6	74
合計	479	524	1,003	475	528	1,003	721	279	1,000

表 16 複写件数上位 30 誌

資料番号	資料名	発行 頻度	平成 5 年度		平成 4 年度		平成 3 年度		平成 2 年度		平成元年度	
			順位	複写件数	順位	複写件数	順位	複写件数	順位	複写件数	順位	複写件数
P0998AC	US DOE Rep	ir	1	7,619	1	9,090	2	9,283	2	8,887	3	6,411
D0244BC	S A E Tech Pap Ser (Soc Automot Eng)	ir	2	6,650	4	4,456	4	5,451	3	8,804	1	7,205
S0532BB	電子情報通信学会技術研究報告	ir	3	6,422	2	8,544	1	9,445	1	9,720	4	5,958
H0492AB	Soc Plast Eng Annu Tech Conf	a	4	5,744	6	3,699	15	3,003	47	1,777	5	5,223
P0999AA	PB Rep	ir	5	4,299	11	3,185	6	4,884	5	5,758	7	4,968
C0266AA	J Appl Phys	sm	6	3,785	18	2,128	19	2,550	7	5,033	6	5,091
Z0703BA	高分子学会予稿集	sa	7	3,435	3	4,700	5	5,264	18	2,647		
C0285AA	J Electrochem Soc	m	8	3,239	57	1,472	44	1,888	54	1,719	14	2,980
C0467AA	J Appl Polym Sci	w	9	3,066	41	1,814	12	3,306	15	2,960	19	2,645
B0722AA	J Mater Sci	sm	10	2,943	40	1,817	13	3,298	14	3,204	11	3,546
X0994AA	材料とプロセス	sa	11	2,922	7	3,555	11	3,529	17	2,734	10	3,597
X0588AA	日本機械学会通常総会講演会講演論文集	a	12	2,873	8	3,482	71	1,486				
S0532BA	電子通信学会技術研究報告	ir	13	2,846	81	1,297	50	1,818	40	1,877	32	1,959
C0278AA	J Chromatogr	83a	14	2,804	77	1,306	68	1,548	13	3,365	12	3,372
H0236AA	Pap Am Inst Aeronaut Astronaut	ir	15	2,667	19	2,111	17	2,679	19	2,510	20	2,638
F0013BA	JETI	m	16	2,592	14	2,651	34	2,069	49	1,765	148	965
X0587AA	日本機械学会全国大会講演論文集	a	17	2,591	39	1,828	41	1,956				
B0952AA	Macromolecules	bw	18	2,466	12	2,715	140	1,082	16	2,817	18	2,690
H0511AA	ASTM Spec Tech Publ(Am Soc Test Mater)	ir	19	2,424	38	1,830	27	2,282	22	2,486	16	2,870
B0899AA	Thin Solid Films	32a	20	2,362	15	2,443	55	1,756	12	3,371	13	3,161
H0588BA	ACS Symp Ser(Am Chem Soc)	ir	21	2,327	29	1,933	18	2,645	8	3,897	25	2,374
B0665AB	IEE Conf Publ(Inst Electr Eng)	ir	22	2,275	13	2,704	153	1,008	154	1,002	21	2,520
P0996AA	AD Rep	ir	23	2,245	49	1,578	9	3,970	11	3,395		
D0472BA	Polymer	sm	24	2,244	16	2,269	37	1,984	122	1,137	153	958
A0478BA	Pap Am Soc Mech Eng	ir	25	2,134	46	1,607	60	1,706	53	1,729	17	2,758
F0172AA	工業材料	m	26	2,017	23	2,055	21	2,483	24	2,433	29	2,136
S0653AA	電気学会全国大会講演論文集	a	27	1,988	5	3,928	7	4,343	10	3,479	8	4,155
C0640AB	Polym Eng Sci	sm	28	1,925	22	2,069	23	2,435	20	2,498	71	1,342
B0270AA	Biochim Biophys Acta	sw	29	1,924	31	1,923	26	2,285				
C0275AA	J Chem Phys	sm	30	1,868	24	2,042	47	1,856	38	1,908	47	1,642

(18.0%)である。

表 15 は資料誌数を分野別に集計したものである。10年前の昭和57年度のデータも加えたが、当時の部門の範囲と、現行の部門の範囲とは少し異なる部分もあったが、現行の部門に合わせて、処理したことをお断りしておく。その10年前の昭和57年度のデータと比較しての特徴は、国内誌が大幅に増加していることである。

3. 7 複写上位 30 誌

平成 5 年度の複写上位30誌のリストが表 16 である。この30誌について平成元年度から平成 4 年度までの過去 4 年間の複写件数、その年の順位も記した。上位30誌の範囲内でも、5年間の数字を見て、大きく変動していることがわかる。